

研究タイトル：ランドスケープデザイン(景観計画)と、土木を融合した建築研究、およびデザイン



氏名：	三橋 修 / MITSUHASHI Osamu	E-mail：	mitsuhashi@kochi-cl.ac.jp
職名：	准教授	学位：	学士(工学)・一級建築士
所属学会・協会：	日本建築学会、高知県建築士会、稲門建築学会、アジア都市環境学会		
キーワード：	ランドスケープ、ジオパーク、防災景観、土木融合建築、建築士養成教育、歴史的建築物		
技術相談 提供可能技術：	<ul style="list-style-type: none"> ・高知県の建築作品、景観に関する提供相談・講演など ・建築的側面からのジオパークに関する技術相談など ・建築士養成教育、及び建築家の仕事に関する相談・講演など 		

研究内容：ジオパーク、津波避難タワー、空港のある景観に関する研究・計画、建築士制度改革に伴う建築専門教育のあり方の調査・考察

◆研究概要

人に寄り添い、慈しみが求められ、環境に優しいことが求められる時代において、特に高知県での建築を介して、防災に役立ち、人・街を幸せにする具体案は何かを探求する。

◆研究テーマと成果の例

(1)土佐清水ジオパーク認定に向けての建築的側面からの研究

令和2年度日本ジオパーク認定を獲得すべく高知県土佐清水市が活動している。高知県内東端部には、既に室戸ユネスコ世界ジオパークがあり、認定されれば相乗効果が期待される。この研究が微力ながらも一助になればと願うばかりである。(右図上:研究成果ポスター)

(2)秋田ゆざわジオパークにおけるランドスケープの基礎調査研究-景観学習教材としてのゆざわジオかるたの試作-

ゆざわジオパークは、火山活動がもたらした河岸段丘、扇状地、鉱物、水、地熱は、里山、植物、生物、および人々に営みをもたらしている。本研究では、ゆざわジオパークのランドスケープを調査研究して、試作されたかるたを通して景観学習に活用することも目的とする。(右図下:研究発表ポスター)

(3)高知県における防災景観としての津波避難タワーに関する研究

概要：高知県は静岡県に次ぐ津波避難タワーの多いエリアである。防災のために建造された200を越える津波避難タワーは、防災時には必要不可欠であるが一方、正常時における景観は人工建造物として、現状で適切化かを悉皆調査の上で考察する。

(4)高知県における木を主体、素材とした建築紹介

「木造建築を世界遺産に」という動きがある。森林率84%全国一の高知における木を素材、主体にした建築、ランドスケープの調査・研究。例えば、内藤廣による高知駅、牧野富太郎記念館、及び隈研吾による雲の上ホテル、木橋ミュージアム等である。実際に足を運び、触れ、共に時を過ごすことから作家性・作品性の調査、分析、研究をする。

この研究の目的は、食・自然・歴史・生活と建築を融合し、景観・修景・ランドスケープを研究することである。研究手法として、食・自然・歴史・生活と建築を融合し、景観・修景・ランドスケープを研究することである。研究成果として、食・自然・歴史・生活と建築を融合し、景観・修景・ランドスケープを研究することである。

ゆざわジオパークにおけるランドスケープの基礎調査研究・景観学習教材としてのゆざわジオかるたの試作。高知工業高等専門学校 ソーシャルデザイン工学科 准教授 三橋 修。この研究の目的は、ゆざわジオパークにはどのような景観があるか、現地調査、現地調査、聞き取り調査を行いながら自分にとって得ることのできる景観を発見し、それに因んで「かるた」を作って(句を作り、絵を描き、塗り絵をし)、多くの人とその楽しさを共有していただくことがこの研究の醍醐味である。

提供可能な設備・機器など：

名称・型番(メーカー)

方眼紙・エスキース用紙 (総合資格学院)

月刊誌「建築知識」(総合資格学院)